

心理学科

1. 教育研究上の目的

心理学科は、心理学の幅広い知識と思考・研究方法を身につけた上で、学生が自らの関心に沿ってテーマを選択し、自立的に研究を進めることができる能力を育むことによって、心理学的な視点で問題解決することができる人材を育成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学科では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「学士（心理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 現代の人間理解と社会問題の解決に寄与する心理学の基本的な知識を獲得しているとともに、その背後に存在する様々な人間観と心に対するアプローチの多様性を理解している。
2. 心理現象や社会現象を客観的にとらえるための研究法・測定法・データ解析法を修得している。

（思考・判断・表現）

3. 人間の心理に対するアプローチの多様性を理解し、自らも複数の観点から心を捉えることができる。
4. 心について、その主観的な性質と個別性を十分に認識しつつ、同時にその普遍的な性質に基づいて客観的に把握し理解することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 社会の常識的な見方や自分の考え方を批判的に検討し、自分で問題を発見し、適切な方法を選択して研究を実施し、自らの主張を説得力のある仕方で開催できる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 1・2年次では、英語文献の精読を通して論文の読み方やディスカッション・スキルを学ぶため、「心理学演習Ⅰ」「心理学演習Ⅱ」を配置する。また、心理学の測定及びデータ分析の手法を理解するために、「心理学研究法Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現）
2. 2・3年次では、多様な研究技法と研究論文の書き方を修得するとともに、研究者や

実践家に不可欠な倫理的観点を獲得するため、「心理学実験演習Ⅰ」「心理学実験演習Ⅱ」を配置する。(知識・技能／関心・意欲・態度)

3. 3・4年次では、文献講読やディスカッション、臨床的技法の実習を通じてより専門的な知識と研究・実践の技法を修得するため、「心理学科専門科目ゼミナール」を配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)
4. 4年次に、それまでに獲得した専門的な知識と研究・分析技法を用いて、自らが選択したテーマについて実証的な研究の計画・実施・分析・結果報告を行うために、必修科目として「卒業論文」を配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
2. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。
3. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。
4. 準備学習（予習・復習）の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。
5. 教員のオフィスアワーを設けることで、毎週特定の時間帯に、学生は自由に教員に授業内容の質問をすることができ、履修計画や就職相談など、様々な相談にきめ細かく応じる。
6. 学習・認知心理学、発達・教育心理学、社会心理学、臨床心理学の4つの領域を網羅できるように専門講義科目とゼミナールを配置する。
7. 卒業論文では、テーマ設定において学生自身の興味・関心を尊重しながら、複数の教員による指導を行う。

(教育評価)

1. 心理学科のカリキュラムの評価は、卒業・進級判定、科目ナンバリング、GPAの活用、在学生調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。
2. 学生個人の教育評価は、卒業要件単位数の充足、卒業論文等の評価、GPAによる判定、社会と関わる諸活動の成果等の実態把握に基づいて総合的に行い、学修支援に生かす。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学科では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 高等学校までの履修内容のうち、国語、外国語、数学、地理歴史、公民について、基本的な内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

(思考・判断・表現)

2. 科学的思考を用いることができる。
3. 自分の見方・考え方を相対化することができ、その上で相手に伝えることができる。
4. 心に対する一般的な見方や個人の経験に根ざした先入観にとらわれずに、心理に関わる問題について考えることができる。

(関心・意欲・態度)

5. 人間とその心に対する純然たる興味・関心を持っている。
6. 個人や社会が抱える心理的問題の解決を通じて、社会へ貢献する志向を持っている。

以 上